

第 2 章 子どもが大切にされるまち

まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。
----------	---

第 1 節		こども支援			子育て世帯への支援や相談窓口が充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					471人	20.4%	505人	21.9%
関係所属	こども支援課、こども政策課							
指標名	こども支援センター（子育て支援）の利用者満足度 毎年度、現状値以上をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
%	98.83	98.67				現状値以上	計画どおりでない	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
2-1-1 こどもの育成支援の充実	人	69,388	65,017	現状値以上	計画どおりでない
こども支援センター（子育て支援）の利用者数 毎年度、現状値以上をめざす。					
2-1-2 子育て家庭への支援の充実					
LINEアカウント「こども・若者情報チャンネル」の友だち登録者数 令和10年度に29,000件以上をめざす。	件	16,399	22,909	29,000	計画どおり
2-1-3 地域における子育て支援の充実	件	13,978	13,693	14,000	計画どおりでない
ファミリーサポート事業の年間利用件数 毎年度、14,000件以上をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○こども支援センター子育て支援エリアでは、交流施設（ひろば）の提供をはじめ、併設している発達支援エリアや関係機関と連携し、子育てに関する講座や相談できる場を提供し、子育て支援の充実に努めた。こども支援センター（子育て支援）の利用者満足度については、「どちらでもない」と回答した方と未回答者が増えたため達成に至らなかったが、不満・やや不満と回答した方はおらず、目標値に近い満足度であった。

○給付金等の申請手続などに市公式LINE「こども・若者情報チャンネル」を活用することにより、友だち登録者数が増加し、子育て世帯、若者向けなど、それぞれの年代に合った情報を積極的に配信した。また、位置情報を活用して市内の自習室や保育施設等を検索できる機能を整備し、利便性の向上を図った。

○ファミリーサポート事業では、地域においてこどもの預かり等の援助を必要とする「利用会員」と、援助を行いたい「援助会員」とのマッチングを行い、実績としては前年度と同程度の利用がなされ、子育て家庭が仕事と育児を両立をするための支援につながった。目標値には届いていないが、県内他市と比較しても本市の利用件数は多く、コロナ禍以降ここ数年は13,000件を超える高い水準で推移している。

今後の方向性・課題

○こども支援センター（子育て支援）では、関係機関と協議・連携し、親子同士の交流促進や子育てに関する情報提供など支援の充実に図り、利用者満足度の向上を目指していく。

○市公式LINE「こども・若者情報チャンネル」は、直接情報を届けられるツールとして引き続き友だち登録者数を増やすため、様々な方法で周知を行うとともに、引き続き子育て世帯や若者が必要としている情報を積極的に配信していく。

○より多くの子育て家庭にファミリーサポート事業を利用してもらうため、事業の周知に努めていく。また、本事業を必要とする方が必要な時に利用しやすいように援助会員確保のための周知活動を工夫していく。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	こども未来部次長 松井 優子
-----	---------	--------	----------------

第 2 節		こども福祉		こどもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				374人	16.2%	433人	18.8%
関係所属	こども福祉課、こども家庭センター						
指標名	こども支援センター（発達支援）の利用者満足度 毎年度、現状値以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	93.0	95.6				現状値以上	計画どおり

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
2-2-1 障害児支援の充実	人	19,557	18,084	22,500	計画どおりでない
こども支援センター（発達支援）の利用者数 令和10年度までに22,500人をめざす。					
2-2-2 養育環境に配慮した支援の充実	人	875	838	900	計画どおりでない
児童家庭相談新規受付件数 毎年度、900件以上をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○こども支援センター（発達支援）では、通所支援延べ4,565件、相談支援延べ4,334件を実施。言語聴覚士による指導にオンラインの活用を開始した。地域支援として幼稚園への巡回相談、支援者や当事者向けに講演会や動画配信を行ったほか、支援者の療育のスキルアップのため学習会を行った。利用者数の減について、1日当たりの利用者数に大きな変動はないが、施設の点検や修繕等による休館が例年より多かったこと等が影響していると考えられる。 ○こども家庭センターでは、児童福祉と母子保健の両機能の連携、協働を図り切れ目ない支援を行った。児童家庭相談においては、こどもやその家族、関係機関からの様々な相談に対応し、必要に応じて継続的な支援を行った。相談件数の減については、妊娠期から出産後にかけては保健師等が全数面談を行っている他、乳幼児健康診査等事業の機会を捉えて専門的な相談先を案内するなどし、早期に支援に繋がったり、相談先の選択肢が増えたことも要因の一つと考える。

今後の方向性・課題			
○こども支援センター（発達支援）は、こどもの発達障害児支援の拠点施設であり、引き続きこどもと保護者への早期支援を行っていくとともに、他機関との連携を充実させていく。また、より多くの方が講演会や研修会に参加できるよう、企画・周知に注力していく。 ○児童家庭相談については、様々な相談に丁寧に対応し、養育環境が深刻となる前に、関係機関と連携し迅速に対応するとともに、引き続き相談窓口の周知に努め、相談しやすい環境整備に努める。また、関係機関との連携を強化し、支援の充実を図る。			
評価日	R8.7.30	記入者職氏名	こども未来部次長 松井 優子

第 3 節		子育て環境			幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					503人	21.8%	504人	21.8%
関係所属	保育幼稚園課、青少年課、こども政策課							
指標名	就学前児童の保育待機児童数 毎年度、0人をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
人	53	1				0	計画どおりでない	
指標名	放課後児童クラブの施設定員 令和10年度までに3,571人をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
人	3,017	3,214				3,571	計画どおり	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
2-3-1 幼児教育の支援	人	146,411	159,813	103,892	計画どおり
幼稚園型一時預かり事業の利用者数					
令和10年度において見込まれる園児数に合わせた利用者数確保をめざす。					
2-3-2 就学前児童の保育の充実	人	5,631	5,769	6,024	計画どおりでない
就学前児童の保育施設の利用者数					
令和10年度までに、6,024人が利用できることをめざす。					
2-3-3 放課後児童クラブの充実	%	97.4	97.2	現状値以上	計画どおりでない
放課後児童クラブの利用者満足度					
毎年度、現状値以上をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○所沢市こども計画に基づき、小規模保育事業所1園の新設、および既存施設の定員増により、保育の受入枠を増やした。また、各保育施設に対し、特に入所保留者が多くなると見込まれる1歳児と地域型保育事業所卒室からの転園申請がある3歳児の受入枠を拡充し、4月入園の利用調整を行った。未就学児童数は減っているが、保育を必要とする方の割合は引き続き高い状況にあり、保育施設の受入枠に対して保育需要が予想よりも若干多い状況であった。 ○令和7年4月から民設民営児童クラブを2施設新規で開設し、計画上の目標は達成しているが、多くの保留児童が発生している状態であり、併せて保留児童を対象とした夏季休業期間中に居場所を提供する「サマープレイスところざわ実施事業」を実施した。放課後児童クラブの利用者満足度は概ね同水準を維持しているが、利用者アンケートからは施設の老朽化に関する意見が見受けられた。 ○幼稚園型一時預かり事業については利用人数が増えており、本事業を必要とする人にサービスを提供できている。事業の拡充を念頭に、所沢市民が利用する幼稚園に市内外問わず事業実施の意向調査を実施した。

今後の方向性・課題
○保育需要の変動を注視しながら、所沢市こども計画に基づき既存施設を活用した受入枠増や保育士確保策等により、引き続き待機児童の解消を図っていく。既存施設の活用だけでは受入れが不足する場合には、保育施設の新設も検討していく。また、保育需要の適正な把握に努め、必要な定員の確保を図るとともに、各保育施設に対しては、入所保留者の多い低年齢児童の受入枠の拡充を依頼していく。 ○放課後児童クラブについては、待機児童の早期解消を目指し、迅速に定員拡大を図っていく必要がある。夏季休業期間中の預かり需要に応えるため「サマープレイスところざわ」を拡充し、安心・安全な居場所を提供していく。また、放課後児童クラブの施設修繕を適切に実施すること等により、利用者満足度の向上を図る。 ○幼稚園型一時預かり事業は、国の事業実施内容に基づき、適切な補助の実施を継続できるよう努める。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	こども未来部次長 松井 優子 こども未来部保育幼稚園担当参事 清水 康雄
-----	---------	--------	---

第 4 節		青少年健全育成		青少年が健全に育つ環境が整備されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				354人	15.3%	304人	13.2%
関係所属	青少年課、社会教育課						
指標名	青少年健全育成に関する施策の満足度 令和10年度までに現状値以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	11.7	15.3				現状値以上	計画どおり

事業目標の達成状況		単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
2-4-1 家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	青少年健全育成街頭啓発キャンペーン参加者数 毎年度、現状と同程度の参加者数の確保をめざす。	人	235	245	現状維持	計画どおり
2-4-2 青少年健全育成の支援						
児童館利用者数 令和10年度までに現状値以上をめざす。	所沢こどもルネサンス事業総参加者数 毎年度、現状値以上をめざす。	千人	299.5	316.0	現状値以上	計画どおり
2-4-3 青少年の教育及び体験活動の充実						
所沢こどもルネサンス事業総参加者数 毎年度、現状値以上をめざす。	所沢こどもルネサンス事業総参加者数 毎年度、現状値以上をめざす。	人	7,849	6,540	現状値以上	計画どおりでない
2-4-3 青少年の教育及び体験活動の充実						

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○青少年育成所沢市民会議と連携し、「家庭の日」推進事業や年2回の街頭キャンペーンなどを実施し、青少年健全育成に関する啓発を行った。
○児童館の利用者数増を目標に各館において様々なイベント等を企画し実施した。令和5年現状値と比較して利用者数は5.7%増となった。
○「所沢こどもルネサンス事業」（実行委員会主催）の支援などにより、青少年の体験活動の充実に取り組んだ。実施事業の中「おはなしのひろば」を含む主要事業において参加者が減少傾向にあり、目標達成には至らなかった。

今後の方向性・課題			
○青少年育成所沢市民会議など青少年育成に関する団体と連携し、青少年が参加しやすい事業を展開していく。また、今後も同規模で街頭キャンペーンを実施し、地域での青少年の健全育成に対する意識を高めていく。 ○児童館運営について、引き続き青少年の健全育成の場を確保していくように努める。 ○「所沢こどもルネサンス事業」の開催支援など、青少年が様々な体験活動への参加を通じて成長ができるよう、今後も体験活動の充実と実施団体の継続的な支援に努める。また、目標達成に向けて、事業内容や周知方法などについて、実施団体とともに見直しを図っていく。			
評価日	R8.7.30	記入者職氏名	こども未来部次長 松井 優子 教育総務部次長 稲田 里織

第 5 節		学校教育			市の小中学校は学びの環境が整備されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と 回答した人数	満足度	力を入れてほしいと 回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					584人	25.3%	476人	20.6%
関係 所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課							
指標名	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び 毎年度、2.5以上の学力レベルの伸びをめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
レベル※	1.7	2.4				2.5	計画どおり	

※ 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
2-5-1 確かな学力と自立する力の育成 学力向上推進事業における研究委託校数 現在の研究委託校数の維持をめざす。	件	20	19	20	計画どおり
2-5-2 豊かな心の育成 いじめ解消率の小・中の割合 令和10年度までに85.0%をめざす。	%	80.1	83.1	85.0	計画どおり
2-5-3 地域が信頼する学校づくりの推進 特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数 毎年度、埼玉県の1校あたりの地域人材活用平均想定人数である1校あたり130人（平成29年度の県実績数）をめざす。（130人×47校=6,110人）	人	5,650	3,391	6,110	計画どおりでない
2-5-4 健やかな体の育成 学校給食における残食率 毎年度、残食率7.0%以下をめざす。	%	6.1	6.2	7.0	計画どおり
2-5-4 健やかな体の育成 新体力テストにおける上位ランクの生徒の割合（中学校）の向上 毎年度、約0.6%の増加をめざす。	%	82.0	81.2	85.6	計画どおりでない

2-5-5 学校環境整備の推進					
学校トイレの洋式化率 令和10年度までに73.0%をめざす。	%	57.7	63.6	73.0	計画どおり
2-5-6 学習環境の整備					
市内小中学校における大型提示装置の導入割合 令和10年度まで100%の維持をめざす。	%	100	100	100	計画どおり
2-5-7 教育環境の充実					
私立学校、地域、行政の連携環境の整備 毎年度、積極的な推進を図る。	-	推進	推進	推進	計画どおり

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○トコろん学力向上プロジェクトで示している授業のスタンダードなど、授業改善に向けた取り組みが各学校で意識的に行われていた。 ○学力向上推進事業においては特別指定研究校4校、基礎研究校15校に研究を委託し、全校が参加する授業研究会を開催し、多くの教員が参加した。 ○児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修やスクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図った。いじめの防止に関して、学校いじめ防止基本方針及び所沢市いじめ対応マニュアルを基にした研修を全校で教職員に対して行い、いじめの早期発見や早期対応、いじめの解消に努めた。 ○各小・中学校では、地域の環境や人材を生かして創造性あふれる教育課程を編成し事業を実施しているが、行事の精選を行っており、一部の学習や行事で縮小等があったため、地域人材の活用も伸び悩んでいる。 ○学校給食について、栄養教諭、栄養士による授業や給食時間における食育指導の積極的な実施や、児童生徒が食に興味を持つよう調理法や味付け等を工夫し、残食率の低下を図った。 ○こどもの健やかな体の育成については、体育授業を通して、「運動が好きになり、自ら体を動かすことに取り組むようになり、結果的に体力が向上する」ことができるよう、授業改善に重点を置いた働きかけを行った。体育授業の評価において、D・E評価の生徒をC評価に引き上げることができていないことや、運動が得意・好きではない生徒に対する働きかけが不十分であることなどから、目標達成には至らなかった。 ○学校トイレ改修事業は、令和3年度に校舎1系統目が完了したが、引き続き2系統目及び屋内運動場のトイレ改修を行っており、令和7年度の洋式化率の目標を達成することができた。また、学校施設の長寿命化改修の実施設計、空調設備の整備等の学校環境の改善を図った。 ○小中学校における大型提示装置については、新たに導入が必要となった10校13教室について、液晶ディスプレイの整備を行った。これにより、GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びと協働的な学びを実現するための環境を整えた。 ○新たに開設された開智所沢小学校・中等教育学校との連携として、市職員が授業に赴き、市施策についての講義や、児童のまちづくりアイデアをもとに意見交換を行った。また、市内イベントの周知を積極的に行い、地域・行政との交流を図った。

今後の方向性・課題

- 児童生徒質問紙調査で明らかになった本市の課題である「主体的な学び」を確かなものにするために、新たな学力推進事業に取り組んでいく。
- 学力向上推進事業における特別指定研究校では、「非認知能力の育成」「話す力の向上」「探究的な学習の充実」に視点を置き、客観的根拠を参考にしながら研究を進めていく。
- 児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校の実現とともに、援助を求めることが苦手ないわゆる「目立たない児童生徒」の声なき声にも耳を傾け、微かなサインに気付けるようにするとともに、積極的ないじめの認知のもと初期段階から組織的に速やかな対応を各学校に徹底する。
- 特色ある学校づくりを学校経営の中心的事項とし、地域の特色及び各学校の特色を生かし、創造的に生きる子どもたちの育成を図っていく。また、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）や、特色ある学校づくり支援事業等を活用して、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちへ支援・指導を行っていくことで、より一層地域と共にある学校づくりを進めていく。
- 教職員と栄養教諭・栄養士が連携し、児童生徒が食について学ぶ場を積極的に設け、食に対する興味を広げていく。
- こどもの健やかな体の育成については、今後も引き続き授業改善を中心に、体育授業を通して運動に興味・関心を持ち、生徒自らが運動に取り組めるように働きかけていく。さらに、令和8年度からの体力テスト結果の電子化に伴い、生徒一人ひとりに合ったフィードバックを即時的に受け取ることが可能になるため、目標達成に向けて、体力テスト結果の活用について学校に働きかけを行い、生徒自身の意欲と体力の向上につなげていく。
- 学校トイレ改修事業の早期完了を目指し、また、学校施設の長寿命化改修工事、空調設備の整備等の学校環境の改善を進めていく。
- 必要な教室に対し、引き続き大型提示装置等のICT環境整備を行い、GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びと協働的な学びの実現に努める。
- 開智所沢小学校・中等教育学校との連携が進むよう、引き続き地元自治会や市所管部署との調整を図っていく。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	経営企画部担当参事 齋藤 伸宏 教育総務部次長 稲田 里織 教育総務部教育施設担当参事 市村 浩昭 学校教育部次長 伊東 真吾 学校教育部学校教育担当参事 御菩薩池 好行 学校教育部保健給食担当参事 渡辺 純也 学校教育部教育センター担当参事 大庭 真紀子
-----	---------	--------	--